

[noto] fonto: "La Lumo Orienta", Jaro 1:N-ro 1, 1931  
reapero: "La Japana Budhano", n-ro 341, 2008 (B.E.2551)

# 全佛教學徒へ敢てエス語の研究を提唱す

## (ALVOKO AL TUTA BUDHANARO)

秋山 文陽

吾が國にガントレット氏や吉野作造氏、黒板勝美氏等の諸先輩がエス語運動を始めて以來二十五年、エスペラント日本大會を催すこと十九回、此間佛教への意圖を以つて参畫した運動も二三起されたが未だ統一且つ大同團結した機関の結成を見るに至らなかつた。然るに今年五月三四者有志の發意より僅かに半歳後の十月には記念すべきエスペラント第十九回日本大會と相前後して全国各地よりの代表者出席の下に盛大なる本聯盟の結成を見るに至つたのである。

然も此の記念すべき年に本聯盟の機関誌として佛教界空前のエス文雜誌"LaLumoOrienta"の創刊號が發刊されるに至つたと云ふ事は、後れたりと雖も方に刮目すべき出來事と云はねばならない。人の力もさる事ながら、時だ、時が來たのだ。眞理を探究し人類の平和と幸福とのために挺身せんとする吾等學徒はよろしく此の時機を逸してはならない。

エスペラントを語る世界には人類平和の癌たる人種的對立がない、言語上のハンディカーポ<sup>1</sup>がない。政治的經濟的宗教的な何等の對立がない、唯友愛があるのみだ、眞に平等があるのみだ、平和があるのみだ。何等の偏見なしに語ることも聞くことも出来るのである。祖師以來永く宗派感念に養はれてきた學徒諸君よ、宜しくエスペラントを學びて新たにエスペラントの内部精神たる人類愛に蘇り、諸宗の開祖達が一様に抱懷した人類愛の熱愛を呼び返せ。然かして一切の偏見を捨て、全人類に呼びかけよ。打てば響きのある如く、エスペラントに依りて呼びかけるとき、必ずや其處には心地よき反響があるであらう。宗教は國境を超へ人種を超へたるものであらねばならぬ。國際的全人類的であらねばならない筈である。殊に交通文明の進歩發達に伴れて地球は愈々縮小された現代に在りては愈然りであるべき筈である。日本の一角に立ちて叫ぶ聲が即座に全人類の耳朶に這入る時代である。

---

<sup>1</sup> handikapoハンディキャップのこと。

よりよき人類文化の建設の為に有(あら)ゆる言語障壁を打破してエスペラントを全人類の国際語として眞に親み合ふ時代を一日も早く促進することは傳道と相待つて是れ又宗教者の任務の一つであらねばならない。

国際聯盟始め国際間の有ゆる国際機関に一二の政治的優越國家の言語のみが語られてエスペラントが語られない限りは、国際関係は其出發點からして既に不平等である。幾多の小國家は必ずや不平であり不満であるであらう。其處には眞の自由があり得ない、従て眞の平和も招來されないであらう。吾人は全人類の平和と幸福との為めにかゝる不平等を除去すべく闘はねばならぬ。全人類の平和と幸福との為めに妨となる有ゆる害悪と敢然として戦はねばならない。翻て惟ふに宗教の本義は傳道主義であらねばならない、傳道の盛なるものは榮へ傳道の振はざるものは衰ふ。吾人は佛の教へをエスペラント語に盛つて全人類に佛の道を傳ふる新らしき傳道の一面を見逃してはならない。ラヂオ文明は方に之を要求してゐるのである。かゝる新生面を展開して佛教界長夜の惰眠を呼び醒せよ。これが漸て己れを生かし祖師を生かし人類を生かす新時代に處するの道である。

然し誤解する勿れ、エスペラント主義は各國夫々國內に在ては其の國語を用ゆることを尊重するものであつて、決して各國語を絶滅してエスペラントを以つて世界唯一の世界語たらしめんとするものではない。國外即ち外國人同士の相互間に於ける文化的經濟的的政治的一切の関係交渉發表に於てのみ斯語を以つて用語とせんとするものである。エスペラントを語るとき、其處には何等の對立もない、全く平等にして平和な中立の世界に這入ることが出来るのである。エスペラントを用ひて先づ此世界へ導き、然る後に佛の道を傳へば、その効果たるや方に百プロチエント<sup>2</sup>たるべし。宜しくエスペラントを利用して世界に進出せよ、エスペラントを以つてする限り何人にも可能である。世界進出を促す機運が動いて來たのだ。JBLEの誕生が是を雄辨に物語るものである。

終りにエスペラントの學習は、恐らく英語や獨逸語や佛蘭西語學習の十分の一の努力で容易に完全に讀むこと、語ること、書くことが出来る言葉であることを記憶せよ。敢て全佛教學徒に斯語の研究を慫慂する所以である。

---

<sup>2</sup> 正しくは「プロツェント」(procento、パーセント)